平成２８年度議会広報調査特別委員会管外行政視察報告書

１　視察日時　　平成２８年７月１４（木）～平成２８年７月１５日（金）
【１日目】習志野市議会
７月１４日（木）午後１時～午後２時３０分
【２日目】船橋市議会
７月１５日（金）午前１０時～午前１１時３０分

２　視 察 先　　習志野市議会・船橋市議会

３　視察事項　　『議会情報のＰＲについて』
・議会だよりの編集・発行について
・議会映像の配信について
・ＳＮＳの広報利活用について　　など

４　視察目的　　議会情報の発信について、両市議会で導入している議会だより表紙写真の一般公募、船橋市議会で導入しているソーシャルメディアLINE及びTwitterを活用した議会情報の発信について調査・検証し、本市議会の議会情報の一層の充実を図る。また、「ならしの市議会だより」や「ふなばし市議会だより」の紙面の編集方法やレイアウトの構成などを調査し、たつの市議会だよりの一層の紙面充実を図ることを目的とする。

５　参 加 者　　議会広報調査特別委員会（７名）
委 員 長　龍田　　惇
副委員長　柏原　　要
委　　員　楠　　明廣
委　　員　木南　裕樹
委　　員　北川　憲一
委　　員　角田　　勝
委　　員　畑山　剛一

《随行》
議会事務局主査　市原　　拓

６　視察先出席者

〔習志野市議会〕

習志野市議会事務局　局　　長　浅井　勝則
習志野市議会事務局　議　事　課　長　川窪　一就
習志野市議会事務局　庶　務　課　長　濱田　祐美
習志野市議会事務局　議事課議事係長　篠宮　淳一
習志野市議会事務局　庶務課主任主事　小林　辰哉

〔船橋市議会〕

船　橋　市　議　会　議　　長　神田　廣栄
船橋市議会事務局　庶務課課長補佐　大谷　忠一
船橋市議会事務局　議　　事　　課　杉原　陽介
船橋市議会事務局　庶務課　調査係　広田　陽平

７　行政視察内容

【習志野市議会】

（１）習志野市議会事務局　浅井局長あいさつ
（２）龍田議会広報調査特別委員会委員長あいさつ
（３）習志野市議会からの調査事項の説明概要

◎ならしの市議会だよりの編集・発行について

①　発行回数　　年４回（２月、５月、８月、１１月）
②　規　　格　　Ａ４判８頁（２回）・１２頁（２回）
③　印 刷 色　　２色刷り
④　発行部数　　１回につき 57,000 部
⑤　経　　費　　5,272,560 円（平成２８年度当初予算額）
［内訳］・印刷/編集　　2,954,880 円（委託費）
・新聞折込　　2,317,680 円（役務費）
※８頁　7 円 40 銭（税抜・1 部あたり）
※12 頁 11 円 10 銭（税抜・1 部あたり）
⑥　配布方法　　主に新聞折り込み、希望世帯に郵送、市内公共施設への配架、市内５駅に設置、議会報編集委員による早朝駅前配布、市ホームページに公開
⑦　そ の 他　　平成２６年５月から、表紙写真の一般募集を行っており、その間の応募件数は１６件、応募枚数３６枚。

◎議会映像の配信について

①　導入時期　　本会議インターネット中継（平成１８年１１月～）
本会議ＣＡＴＶ中継放送（平成２５年６月から）
スマホ・タブレット端末に配信対応（平成２７年５月～）
②　経　　費　　生／録画　1,555,856 円（平成２７年度実績）

【船橋市議会】

（１）船橋市議会　神田議長あいさつ

（２）龍田議会広報調査特別委員会委員長あいさつ

（３）船橋市議会からの調査事項の説明概要

◎ふなばし市議会だよりの編集・発行について

①　発行回数　　年４回（４月、７月、１１月、１月）
　　改選の年は年５回

②　規　　格　　Ａ４判１６頁

③　印 刷 色　　フルカラー刷り

④　発行部数　　１回につき 186,000 部程度

⑤　配布方法　　主に新聞折り込み、新聞未購読者への郵送、駅スタンドへの設置、市内公共施設への配架

⑥　そ の 他　　表紙写真を一般募集している

◎議会映像の配信について

①　導入時期　　本会議インターネット中継及び録画配信
　　（平成１６年～職員による作業、平成２５年より外部委託）
　　※スマホ・タブレット端末でも配信対応

②　経　　費　　生／録画　4,976,640 円（平成２７年度実績）

③　そ の 他　　YouTube による映像配信について協議中

◎ＳＮＳの広報利活用について

［船橋市公式 LINE アカウント］

お友達追加数　　1,304 人（平成２８年７月１２日現在）

［船橋市公式 Twitter アカウント］

フォロワー数　　271 人（平成２８年７月１２日現在）

※Facebook についても検討中であるが、コメントの書き込み機能について、特定の議員に言及する内容が書き込まれる可能性を懸念している。

８　視察結果及び所感について

今回の行政視察の結果、習志野市議会、船橋市議会での広報についての取組をまとめると次のとおりである。今後、当委員会での視察事項を検討する中で、両市の取組で良いと思われることは積極的に導入し、市民の皆さんに市政・議会について興味を持ってもらえるよう取り組んでいくことが重要であると考える。

（１）　習志野市議会

≪議会だよりの編集・発行について≫

・年４回発行のうち、２回が８頁、２回が１２頁とバラツキがあるのは、予算不足からで、本来は４回とも１２頁にしたいと考えている。

・編集委員会は、各会派から１名づつ選出された委員９名で構成され、委員長・副委員長を互選し、任期は２年である。

・一般質問の原稿については、定例会の最終日までに各議員が作成し事務局へ提出。事務局では、一般質問以外の原稿の作成、全体の編集、校正作業を行う。
・通称「習志野市心が通うまちづくり条例」が制定され、平成２８年４月１日から公文書の作成にあたり、文字のフォントは原則「ＭＳＰゴシック」にすることとされたことを受け、編集委員会において、議会報もゴシック体にすることが決定された。

〇市議会だより表紙写真募集について
・平成２６年５月の議会報のリニューアル（タブロイド版⇒Ａ４版）を機に、表紙写真の募集を開始。
・約２年間で１６件の応募があったが、うち８件は同一人物であり、応募数が振るわないほか、未採用の応募写真が長期間蓄積されるなど、課題も多くある。

［「ならしの市議会だより」表紙写真募集要項　抜粋］
募集する写真　「ならしの市議会だより」の表紙を飾る、習志野市内で撮影された四季折々の風景、町並み、名所、イベント等
応 募 資 格　習志野市在住、在勤又は在学の個人
受 付 期 間　通年で受付

〇早朝駅前配布
・平成２４年１１月より、議会報発行日の朝７時から約１時間、編集委員が市内の駅前で議会だよりの手配りをしている。
・各号の第１回編集委員会で、駅前早朝配布を実施するか否か、実施駅を決定する。

≪議会映像の配信について≫
・昭和６３年９月から庁内の専用テレビ回線を使用して庁内テレビ中継を開始した。平成１３年６月に全会一致で採択された、「市政への市民参加の促進に関する請願」が、習志野市議会広報にとって大きなターニングポイントとなった。
・平成１８年１１月より、本会議インターネット映像配信の本稼働開始。
・平成２５年６月より地元ケーブルテレビ会社からの要請を受け、本会議中継のケーブルテレビでの放送が開始されたが、平成２７年に番組改編に伴う放送内容変更の申し入れがあり、現在はニュース番組内での一部放送に変更されている。

【所感】
〇「議会報一般質問原稿の申し合わせ事項」に、
・送り仮名、ひらがな等は、標準用字用例辞典を基本とする。
・和暦の年号は、「平成〇〇年」と表記し、原則「今年度」、「来年度」ではなく、「平成〇〇年度」とする。
・「障害者」は「障がい者」とする。
とあり、また文字フォントを原則「MSP ゴシック」に統一するなど、読みやすさや読者への配慮がうかがえ、文書作成の上でたいへん参考になった。

〇議会だよりの表紙写真を市在住・在勤・在学の個人に募集されている取組は、市民に親しみを持っていただく方法として参考になったが、導入するには応募者を多くする工夫が必要である。

（２）　船橋市議会

≪議会だよりの編集・発行について≫

・広報委員会は常任委員会化されている。（委員は１４名で、３人以上の会派から所属議員３人に１人の割合で選任する）平成２３年に議会運営委員会から議会改革として、広報広聴については常任委員会化すべきとの委員会条例の改正案が提出・議決された経緯がある。

・平成１７年第１回定例会からフルカラー化を図っている。

・配布方法は主に新聞折り込みで行ってきたが、近年の新聞購読者の減少傾向は著しく、未購読者への郵送対応が、毎年約 1,000 部づつ増加している。

・一般質問、質疑の記事については、議員自ら作成するか、掲載希望を事務局職員が聴き取りをし、作成している。また、第１面記事タイトルについては広報委員会で決定し、その他の記事については事務局が一から作成している。

・表紙写真の公募を行っているが、募集を呼びかけているものの、件数が増えない状況にある。

≪議会映像の配信について≫

・平成１６年からインターネットによる本会議生中継・録画配信を開始。（平成２５年まで、職員の操作・手作業による直営だったが、現在は委託）

・平成２６年２月より委員会生中継・録画配信を開始。（対象会議は、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会）

・ＰＣ、スマホ、タブレットにより視聴可で、ストリーミング方式による配信は導入当初、市議会初）

・委員会のインターネット中継設備が当初１部屋での導入だったため、重複開催の委員会に対応できないという課題があり、現在増設を協議中。

・YouTube による映像配信について、公式チャンネルの開設や管理を行う上で、考えられる課題や費用について検討中である。

≪ＳＮＳの広報利活用について≫

・本会議、委員会日程などの議会情報を発信しているが、その登録者数の多寡・利用者層については、検証が必要である。

・平成２７年９月に Twitter 社の認証マークを取得した後、Twitter フォロワー数が伸びた。

【所感】

○より身近な広報誌を目指して、議会だよりの表紙写真を習志野市と同じく、市在住・在勤・在学の方に募集されているが、やはり応募が少なく公民館の写真サークルへ声を掛けているとのことで、本市で導入するには市内で調査が必要であると思われる。

○平成 28 年 7 月に 18 歳選挙権が導入されてはじめての国政選挙である第 24 回参議院議員通常選挙が実施されたが、選挙や議会に関心のない若年層へ少しでも多く広報し、幅広い年齢層にもっと知っていただく方法として、20 代以下の利用率が 50%を超える、「LINE・Twitter・Facebook」など SNS の利用や「i 広報誌」(スマートフォン用アプリ)による市議会だよりの配信などスマートフォンの活用拡大など、調査研究の必要性を感じた。